

平成25年度研究成果サマリー

本研究所では、その年度に終了する研究課題の成果等をまとめた、研究課題ごとの「研究成果報告書」を刊行し、ウェブサイト上で公開している。また、研究成果をよりわかりやすく普及していくため、研究成果報告書の内容を要約して一冊にまとめた「研究成果報告書サマリー集」を作成している。

ここでは、「研究成果報告書サマリー集（平成25年度終了課題）」の中から、各研究課題の成果の「要旨」及び「キーワード」を抜粋し、掲載する。

なお、平成25年度に終了する研究課題の「研究成果報告書」及び「研究成果報告書サマリー集」は、平成26年6月末の刊行を予定している。

〔専門研究A〕

特別支援学校及び特別支援学級における教育課程の編成と実施に関する研究

研究代表者： 原田 公人

研究概要はこちら→ <http://www.nise.go.jp/cms/8,6738,18,105.html>

【要旨】

平成22～23年度で実施した専門研究A（重点推進研究）「特別支援学校における新学習指導要領に基づいた教育課程編成の在り方に関する実際研究」では、約1,000校ある全ての特別支援学校への質問紙調査法により、新学習指導要領への移行に向けた時点での、教育課程編成の全体的な実施状況を把握した。

そこで、本研究では、その結果も踏まえ、移行措置の時期を終え本格実施の時期に入った特別支援学校の学習指導要領に基づく教育課程編成の特色ある取組を収集し、学校ごとに丁寧に追跡していく質的研究の手法により、その現状と課題を明らかにした。

併せて、新たに、特別支援学校の学習指導要領を参考にして編成することとなっている小・中学校の特別支援学級における「特別の教育課程」の編成と実施に関する現状と課題を、障害種別も考慮しながら、担任や市町村教育委員会などへの質問紙調査や訪問調査などから明らかにした。

【キーワード】 学習指導要領、教育課程、特別支援学校、編成、実施

〔専門研究A〕

デジタル教科書・教材の試作を通じたガイドラインの検証 ―アクセシブルなデジタル教科書の作成を目指して―

【中期特定研究（特別支援教育におけるICTの活用に関する研究）】

研究代表者： 金森 克浩

研究概要はこちら→ <http://www.nise.go.jp/cms/8,6739,18,105.html>

【要旨】

本研究は、中期特定研究に位置付けられ、平成23年度に作成したデジタル教科書ガイドラインに基づいて

研究概要

さまざまな障害のある子どもたちにとって使いやすく、教育効果のあるデジタル教科書のモデルの試作及び、評価を行うことでガイドラインの有効性の検証と内容の改善を行うことを目的に実施した。学習者用のデジタル教科書は、テキストと図だけのシンプルなデザインである方が、よりアクセスしやすくかつ学びやすい形態であるという知見が得られた。そのためには紙の教科書の制作についてもデジタル教科書の制作を意識して作ることで、作成のコストを含め、アクセシブルなものとなるのではないかと考えられた。また、データの取り扱いを含めて著作権に関する整備が課題となった。

【キーワード】 デジタル教科書・教材、アクセシブル、ガイドライン、コンテキスト、コンテナ

〔専門研究B〕

特別支援学校（視覚障害）における教材・教具の活用及び情報の共有化に関する研究 ―ICTの役割を重視しながら―

【中期特定研究（特別支援教育における ICT の活用に関する研究）】

研究代表者：金子 健

研究概要はこちら→ <http://www.nise.go.jp/cms/8,6740,18,106.html>

【要旨】

特別支援学校（視覚障害）は、自校における専門的で質の高い視覚障害教育を行うとともに、その専門性を基として、地域の視覚障害教育の核となり、センター的機能を発揮しながら外部支援を更に充実させていくことが求められている。

本研究では、その専門性の一つとして、特別支援学校（視覚障害）における教材・教具等の整備と活用に関する実態や課題について把握し、教材・教具等の充実と活用促進を図るための方策を検討するとともに、教材・教具等の整備及び活用に係る情報共有の在り方についても検討している。

これらの検討に当たっては、視覚障害教育において特に有用性が指摘されている ICT の役割を重視して、その活用を特に取り上げた。

【キーワード】 視覚障害、教材・教具、ICT、特別支援学校（視覚障害）

〔専門研究B〕

特別支援学校（肢体不自由）の AT・ICT 活用の促進に関する研究 ―小・中学校等への支援を目指して―

【中期特定研究（特別支援教育における ICT の活用に関する研究）】

研究代表者：長沼 俊夫

研究概要はこちら→ <http://www.nise.go.jp/cms/8,6741,18,106.html>

【要旨】

本研究では、特別支援学校（肢体不自由）の専門性において、きわめて重要な位置を占める AT（Assistive Technology：支援技術、以下「AT」）活用に関する現状と課題について、全国特別支援学校（肢体不自由）を対象とした調査から把握し、整理・分析した。そこで明らかとなった課題の解決を図るための考え方と実践事例を示した。併せて AT 活用の促進を図るための学校の取組を把握するためのツールとして「AT 活用の自己評価マトリクス―特別支援学校（肢体不自由）版」を開発した。さらに、特別支援学校のセンター的機能

研究概要

を活用した小・中学校での肢体不自由のある児童生徒への AT 活用の現状と課題について調査結果と実践事例より考究した。

【キーワード】 肢体不自由, 支援技術 (AT), 情報通信技術 (ICT), 組織的取組, センターの機能

[専門研究B]

ことばの遅れを主訴とする子どもに対する早期からの指導の充実に関する研究 ―子どもの実態の整理と指導の効果の検討―

研究代表者： 久保山 茂樹

研究概要はこちら→ <http://www.nise.go.jp/cms/8,6742,18,106.html>

【要旨】

「ことばの教室」(言語障害通級指導教室及び言語障害特別支援学級)で指導を受けている子どもの3割程度が「ことばの遅れ」を主訴とする子どもである。ことばの遅れを主訴とする子どもの実態は多様であり、担当者は指導に苦慮している。そこで本研究では、①ことばの遅れを主訴とする子どもの実態を明らかにする、②指導内容・方法を明らかにする、③早期から支援している幼児ことばの教室等の役割を明らかにする、の3点を目的とし、事例研究、ワークショップによる資料収集、実地調査による資料収集と分析を行った。その結果、子どもの実態については、7項目の背景要因が抽出でき、子どもの実態を整理する視点を得た。指導内容については、ことばの教室における指導の要点を8項目に整理できた。幼児ことばの教室等については、地域の母子保健、医療、福祉と連携し、就学までを一貫して支援をする役割が明らかになった。

【キーワード】 ことばの遅れ, 言語発達, 言語障害, ことばの教室, 幼児ことばの教室

[専門研究B]

自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の算数科・数学科における学習上の特徴の把握と指導に関する研究

研究代表者： 岡本 邦広

研究概要はこちら→ <http://www.nise.go.jp/cms/8,6743,18,106.html>

【要旨】

本研究では、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する当該学年の算数科・数学科の内容を学習している自閉症のある児童生徒の算数科・数学科における学習上の特徴の把握と必要な指導について検討することを目的とした。方法として、自閉症のある児童生徒の算数科・数学科に関する先行研究のレビューと研究協力機関からの情報収集、アンケート調査、研究協力機関での実践を行った。アンケート調査では、基本的な計算は習得していたが、学習した内容を日常生活に利用したり数学的な表現で説明したりすることに難しさが認められた。また、文章題の読み取りのできない児童生徒が比較的多く存在した。さらに、アンケート調査の結果は、先行研究や研究協力機関での事例を支持したものを含んでいた。研究協力機関の実践では、実態把握から評価までの指導過程に基づき、その都度、自閉症のある児童生徒の実態を見直し、彼らにとって必要な指導内容や指導方法を検討した。その結果から、個々の対象児童生徒の実態把握から評価までの指導過程に基づいた指導を行い、特に、算数科・数学科の必要な指導を行う上でのポイントとして、振り返りを行うことと学習内容の重点化・精選化・単元の配列の変更を行うことの2点の重要性が示唆された。

研究概要

【キーワード】 自閉症・情緒障害特別支援学級，自閉症，算数科・数学科，指導

[専門研究B]

高等学校における発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への指導・支援に関する研究 ー授業を中心とした指導・支援の在り方ー

研究代表者： 笹森 洋樹

研究概要はこちら→ <http://www.nise.go.jp/cms/8,6744,18,106.html>

【要旨】

本研究では，高等学校における特別支援教育体制の充実強化と指導・支援の充実方策の内容について，研究協力校における現場のニーズに応じた指導・支援の在り方に関する実践を通して，大切にしたいポイントについて検討した。研究協力校における実践では，授業のユニバーサルデザイン化，習熟度別・少人数授業，個別的な指導の場の工夫，授業研究会，TTによる指導や支援員の活用など，各校の生徒の実態や教員のニーズに応じた配慮や支援の工夫により，生徒の学ぶ意欲が変わるという成果が得られた。実践をもとに高等学校における特別支援教育体制の充実強化と指導・支援の充実方策の内容について，「実態把握」，「組織的な対応・校内支援体制」，「教育課程・指導形態」，「指導・支援」，「学習評価」，「中高連携」，「キャリア教育・進路指導」の7つの観点から，現状と課題，大切にしたいポイントについてまとめた。

【キーワード】 高等学校，特別支援教育，指導・支援，わかりやすい授業づくり